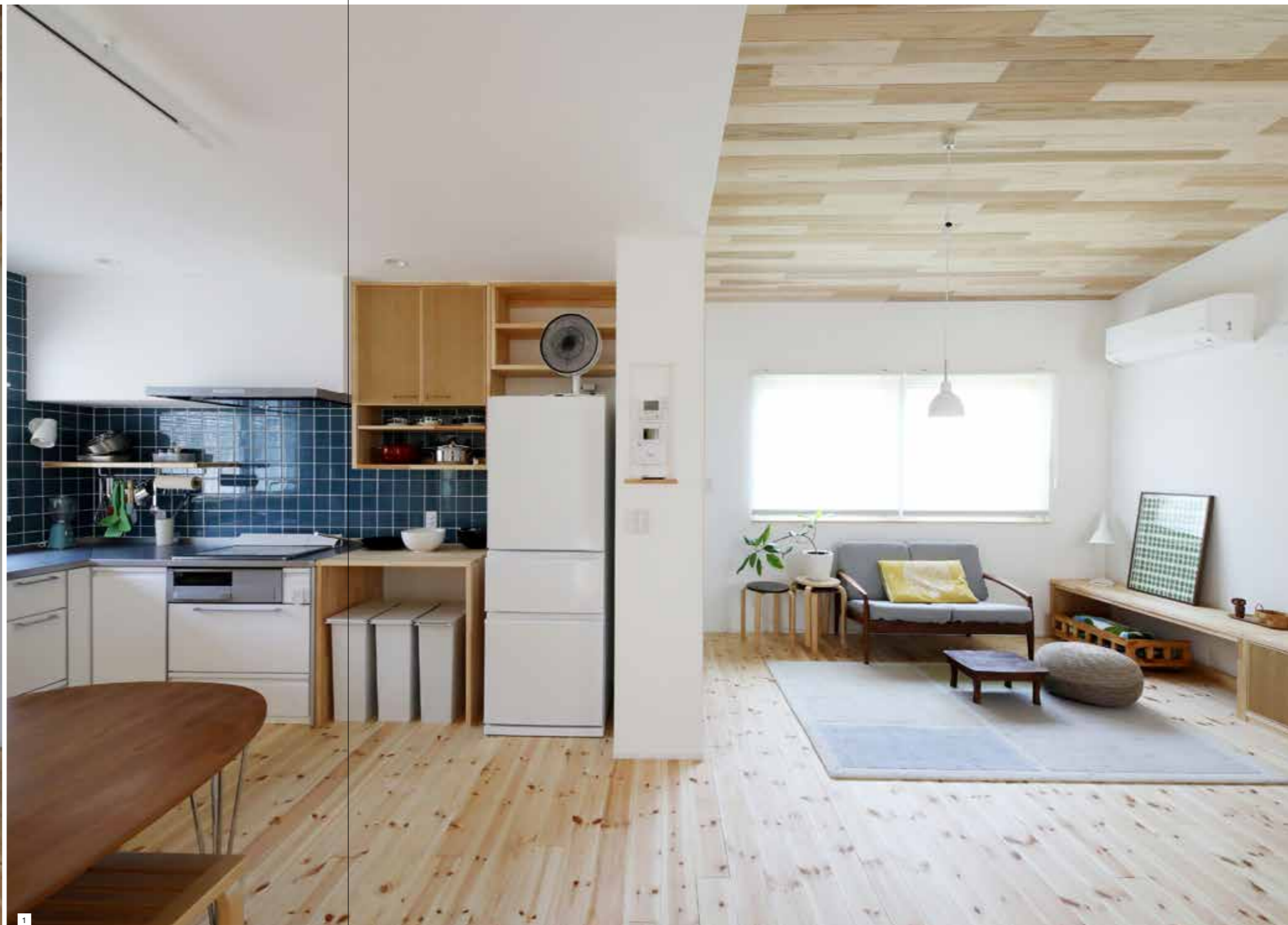


1. LDKの床材にはパイン、リビングの勾配天井には秋田杉を使用。家のなかでは素足で過ごすことが多いというKさん。「足触りがよくて、やっぱり無垢にしてよかったなと感じています」と話す。2. リビングの木製サッシは、室内側をクリア塗装、室外側を濃い目のブラウンに塗装。両側から違った表情が楽しめる。リビングの一角には山本製作所製のペレットストーブを設置した。



LDKからつながる中庭は、建物の南側の一部を凹ませてできるコの字型のスペースを利用。中庭を設けることで、3方向からの採光が入り、規模が大きくなるほど暗くなりやすい平屋の室内が明るく開放

「リビングのイスに座って、木製サッシから中庭の風景が見るのが好きです」とKさん。リビングの2面に設けた木製サッシの窓は、Kさんにとっての希望。デザイン性はもちろんのこと、回転窓で窓掃除がしやすく、トリプルガラスによる断熱効果も高いと、性能面も抜群だ。

間

口に対して東西にゆったりとした広がりをもつ平屋のコートハウス

であるK邸。玄関から廊下を進み、順番に部屋を移動すると、奥に広がるのは、白×無垢を基調としたナチュラルで開放的なLDKだ。その各所を彩るのが、施主であるKさんが長年かけて集めたお気に入り北欧デザインの家具たち。洗練さと居心地の良さを兼ね備える、まさに北欧スタイルの空間といえる。同居するKさんの両親も負担なく過ごせるよう、快適な温熱環境や段差の少ないフラットな設計がなされているのも特徴だ。正統派の北欧スタイルながら、気軽に腰掛けたり、横になれる小上がりの和室スペースを設けた。「和室はやっぱり落ち着く」と両親も喜んで

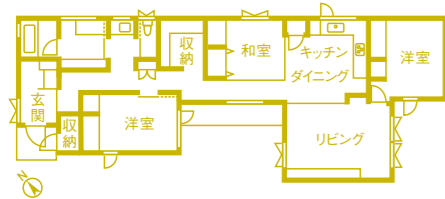
暮らしやすさと自分らしさがあふれる北欧スタイルの平屋

施工 CHORALY 菊地建業 | 横手市/K邸

02



「木の家」に憧れていたというKさんらしく、外壁はスギ杉の下見板張りに。屋根の青緑色は杉の経年劣化を見越し、グレーの色合いへ変化していったときにもなじ馴染むようにセレクトした。



家族構成

本人(40代)、父(70代)、母(70代)

設計 阿部まami建築設計事務所

施工 有限会社 菊地建業

竣工 2023/1 **構造・工法** 木造軸組工法

規模 1階建 **敷地面積** 268.18㎡ (81.12坪)

床面積(総) 106.86㎡ (32.33坪)

1階106.86㎡ (32.33坪)

主な設備・断熱性能等

- 暖房の種類/エアコン(電気)、ペレットストーブ ● 給湯の種類/エコキュート(電気) ● バス/タカラ グランスパ
- トイレ/TOTO GG1 ● キッチン/タカラ トレーシア
- 調理器具/IH ● 窓仕様(主なもの)/樹脂サッシLow-Eペアガラス ● 断熱材/グラスウール、ロックウール ● 換気システム/第3種換気 ● UA値/0.28W/mK

主な仕上げ材

- 床材(主なもの)/無垢(パイン) ● 内壁材(主なもの)/ビニールクロス ● 屋根材/ガルバリウム鋼板 ● 外壁材/木材(スギ)

総工費・坪単価

- 建築工事費の総額/2,300万円台(税別)
- 坪単価/70~75万円(税別)

CHORALY 菊地建業



代表 菊地さん

Kさんとお話ししていくなかで、北欧に対する好きな気持ちや情熱がひしひしと伝わってきました。それらを空間に当てはめていった結果、ご本人らしい理想のお家が完成しました。ご両親との暮らしも配慮したまさに孝行の家だと思います。

<http://choraly.com>

☎018-588-8468

→ P.155



6



4

3. キッチンがL字型をセレクト。L字の2面とも壁付けにすることで、作業スペースや収納スペースを広く確保。北欧を感じさせるブルータイルが室内のアクセントに。4. 両親の寝室からは中庭の風景が望め、ほど程よい採光で心地よい空間に。造作棚にはお父さまの趣味だというオーディオ機器や真空管アンプが並ぶ。5. LDKの一角には小上がりの和室を設置。視線の抜けができ、より開放的な印象に。南側の窓から気持ち良い陽光が入り、お昼寝に最適なスペースとなっている。6. Kさんの寝室はリビングと隣接する。衣装クローゼットはあえて仕切らないことでコストカット。デンマーク生まれのブランド・ルイスポールセンのライトが、くつろぎ空間を優しく照らす。7. 造作の独立洗面台はモルタル風のコンクリート塗装材である MPC を使用。左官仕上げによるグレーの濃淡や質感が楽しめる。8. LDKから出入りできる中庭スペース。K邸のシンボルにもなっているヒュウガミズキの木、砂利や石畳などの造園部分はKさん自身で手掛けたものだろう。



8



7



5



3

感のある空間に仕上がっている。家づくりは、土地との出合いがきっかけだったというKさん。実家に帰省した際、隣の空き地が売り出されると知り、古くなった実家の建て替えに最適と考えたという。当時離れて暮らしていた両親との将来的な同居を視野に入れていたこともあり、土地を購入することに。ビルダーは北欧スタイルの住宅を得意とするコーラーに依頼した。「もともと北欧デザインが好きだったのも決め手のひとつですが、複数

のビルダーさんとお話ししたなかで、設計者の顔が見えるところがなかなかなかったんです。菊地さんや設計の阿部さんとは最初の段階からいろんなお話ができて、お二人がつくるもの、そして人柄に惹かれたのが一番だったかもしれないと話す。自分の「好き」を詰め込んだ理想の住まい、そして家族それぞれの日常を快適に、かつ楽しくさせる北欧スタイルの暮らしが実現した。